

西之島の火山活動解説資料（平成 27 年 1 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

平成 26 年 6 月 11 日に火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

< 1 月 21 日の状況（図 3～4） >

海上保安庁が実施した上空からの観測によると、第 7 火口で噴火が継続していました。噴煙は灰色で、高さ約 500m で西に流れていました(図 3)。溶岩流は島の東側に流出し扇状に広がっていました。

火砕丘東側の麓にも溶岩が露出している所が確認され、青白色の火山性ガスを放出していました。また、その東側には、地表面に硫黄が析出している場所が確認され、青白色の火山性ガスをわずかに放出していました(図 4)。

変色水は、薄い青白色で西之島の東岸から北岸に沿って幅約 200～300m に分布しているのが確認されました。また、西之島の西岸の旧西之島付近から南側の海岸線に沿って幅約 150～250m で薄い黄緑色の変色水が分布しているのが確認されました。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年 2 月分）は平成 27 年 3 月 9 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

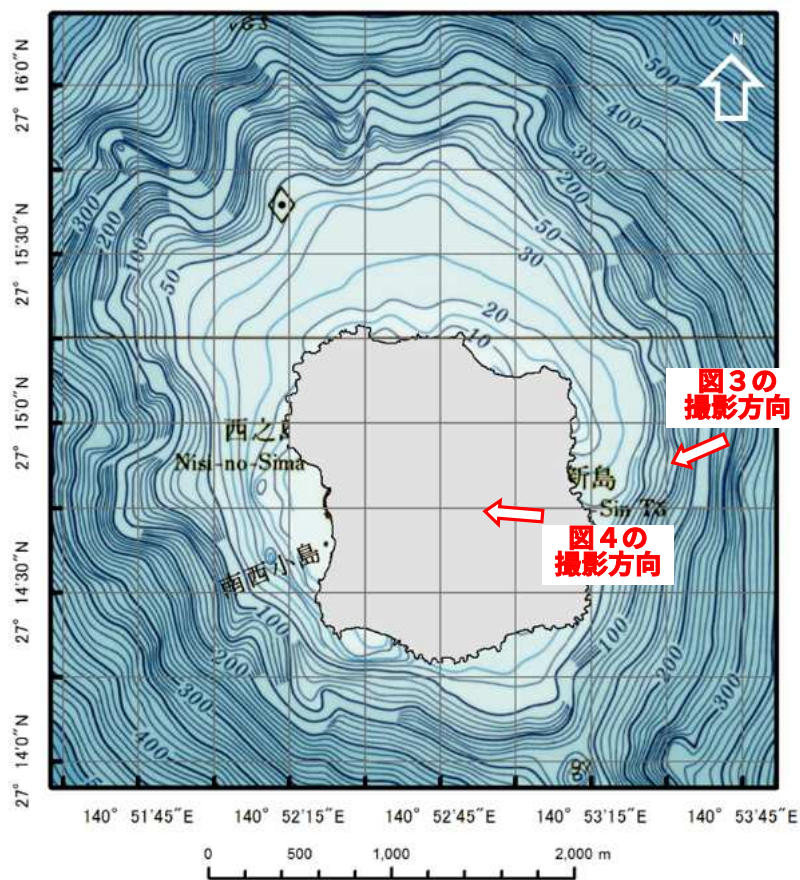


図2 西之島 主な撮影方向
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図 3 西之島 噴火の状況（1月21日 11時21分 東方向から撮影・海上保安庁提供）
第7火口からの噴火が継続し、灰色の噴煙が高さ約500mで西に流れているのが確認されました。



図 4 西之島 火砕丘東側の状況（1月21日 11時37分 東方向から撮影・海上保安庁提供）
火砕丘東側の麓の溶岩露出部（矢印）及び硫黄析出部（破線内）が確認されました。